

科目番号	科目名	担当者名	教養・専門 資格・教職	単位数	選択・必修	開講年次 ・時期
SB2	現代企業論 Theory of Contemporary Company	金森 和彦	専門	2	選択	1年秋

科目の概要

企業は、われわれにとって、日頃から当たり前のように存在している存在であり、現代の生活に不可欠な存在です。しかしその姿は、多くの人にとって、ごく特定の、それも商品やCMを通してのイメージにとどまっています。そのため、マネジメントの領域、企業を管理・運営していく際の前提条件である企業形態の意義、組織としての必然性、などについて理解している人となると、かなり少数になってしまうでしょう。本講義では、マネジメントの主対象である企業の本質について明らかにし、さらに現代において求められている企業像について考察します。

学修内容	到達目標
企業と会社の違い、会社形態の違いを認識する 企業の成長パターンについて理解する 日本の企業発展の特徴について理解する 企業成長と経営者機能との関係を正しく認識する 企業の統治、社会的責任について考察する	企業(会社)の本質を述べるができる 日本的な企業システムの方向性について説明できる 企業経済学の基本を知っている 経営者機能、目的について説明できる 企業のあるべき姿を示すことができる

学生に発揮させる社会人 基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す 力	主体性 常に当事者意識を持つ。また、配布プリント「講義レジュメ」のみに依存せず、自分自身のオリジナルの講義ノートを作成する。
	働きかけ力 できるだけ早めに担当教員、時には受講生仲間に訊ねるなど、不明の点を解消しておく。
	実行力 配布プリント『重点課題』の次回該当部分の設問に対して、『講義レジュメ』を参考にしながら、次回までに一度、回答を作成しておく。
考え抜く 力	課題発見力 講義中の解説を聞き、自らの『重点課題』の設問に対する事前の回答の不十分な点を見いだす。
	計画力 次回の講義に該当する『講義レジュメ』部分に事前に目を通す。
	創造力 常に身の回りの現実の会社をイメージし、講義内容とを結びつけられるように意識する。
チームで働く 力	発信力 一般的な社会的知識を問う質問を講義時間中に行うことがあるが、それに関して消極的な態度で臨まず、現状の知識量、内容を正直に、また明確に伝える。
	傾聴力 講義における重要ポイントを聞き逃さないように集中している。
	柔軟性
	状況把握力
	規律性 常に周りに配慮した行動を心がける。また、授業中、その授業に関係しないことはしない。
ストレスコントロール力 わからないことがあっても、それを理解することが真の学習と心得て、前向きに行動する。	

テキスト及び参考文献

テキストは配布プリントにて対応します。参考書は、伊丹ほか編『企業とは何か(リーディングス、日本の企業システム第1巻)(有斐閣)、日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』(日本経済新聞社)、などがありますが、先々を考えると、日本経営協会監修『経営学検定試験公式テキスト 経営学の基本』(中央経済社)も候補です。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連: 経営学関連科目全般
 資格との関連: 「経営学検定」「中小企業診断士資格試験」

学修上の助言	受講生とのルール
講義内容を簡潔にまとめた『講義レジュメ』、重要な設問を記した『重点課題』を配布する。それらをベースに、自分だけのノートを完成してください	当たり前のことですが、他の受講生の学習の妨げになるような行為(途中退室、私語)は原則禁止です。また配布プリント、筆記具等を持たないで履修することは、出席していないに等しいと肝に銘じてください。そして予習・復習を忘れないこと。とりわけ、不幸にも出席が叶わなかった時に授業内課題が出された際には、できるだけ速やかにその内容を把握し、後日でも構わないので確実に提出すること。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記(レポート含む)実技・口述試験	90	①	✓	・到達目標の ~ に対応して、それぞれの基本概念、キーワード、そして関係性(原因、結果)を問う問題に対して、正しく理解しているか、自分自身の意見を論理的に示すことができるか、などによって評価する。 ・配布プリント、自筆ノートの持ち込みを許可するが、その分、設問のレベルも高いものを要求していると心得て、準備を怠らないこと。		
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
	平常評価	小テスト			①			
					②			
					③			
					④			
					⑤			
		レポート				①		
						②		
						③		
						④		
						⑤		
		成果発表(プレゼンテーション・作品制作等)				①		
						②		
						③		
						④		
						⑤		
学修行動	社会人基礎力(学修態度)		10	①	✓	(主体性)(課題発見力)(創造力) 当事者意識を常に持ち続けること、これは学習態度での評価というよりも、学習効果そのものに影響する。 (実行力)(計画力)(発信力) レポート課題やチェックシートによる作業は正答率に基づく評価をするものではないが、これをどれほど真剣に答えているか。 (傾聴力)(規律性) 不要な授業中の「ながらスマホ」周囲に迷惑を及ぼす行動(遅刻、不要な入退室、私語など)は、当然、減点評価対象です。		
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)の基準
到達レベルBの基準に加えて、以下の内容について答えられる。 ・企業と擬似的な経済事業組織の違い、 ・日本での企業間関係の拡がりとその維持する要因、 ・日本の経営システムと企業成長との関係、 ・企業の成長につれて、「経営者機能」は、どのように変化していくべきか。 レベルS基準はさらにこれらについて論理的に説得力のある自分の意見として述べるができる。	到達レベルCの基準に加えて、以下の内容に答えられる。 ・私企業と公企業の違い、 ・株式会社形態において設定が必要である機関の目的、 ・内発的成長、統合による成長、それぞれの長所・短所、 ・「株主支配」「経営者支配」の根拠

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	・講義の内容、評価方法等についての解説 ・企業のイメージと学問的定義との相違について学ぶ	・学修に関する重要事項説明(シラバス等配布) ・講義	企業の社会的な定義、とくに経営学的な定義に関する3つのポイントを列挙することができる。	【予習】シラバスを読み、科目内容を理解する。 【復習】キーワードを意識して、今回の学習内容を500字以内でまとめてみる。	45 60	主体性 実行力 計画力
2週 /	・前回のおさらい ・企業とその他の擬似的な経済事業組織との違い、企業と会社の違い(会社法の観点、税法上の観点)、について学ぶ	・『講義レジュメ』 『重点課題』の配布 ・講義 ・レスポンス・カード(RC)の記入	個人企業と会社との違いを示すキーワードをあげることができる。	【予習】前回内容についてまとめる。 【復習】『重点課題』を用い、今回の学習内容に該当する質問に回答する。	90 90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
3週 /	・前回のおさらい ・資金調達メカニズムの発展と企業形態との関係について学ぶ	・講義 ・RCへの記入	資金調達と企業成長との関係を説明することができる。	【予習】今回の内容について『講義レジュメ』で確認する。 【復習】『重点課題』を用い、今回の学習内容に該当する質問に回答する。	90 90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
4週 /	・前回のおさらい ・株式会社形態の基礎知識を学ぶ	・講義 ・RCへの記入	株式会社形態の法的制度の重要ポイント、また設定されるべき機関を示すことができる。	【予習】今回の内容について『講義レジュメ』で確認する。 【復習】『重点課題』を用い、今回の学習内容に該当する質問に回答する。	90 90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
5週 /	・前回のおさらい ・株式会社形態の優位性の根拠について学ぶ	・講義 ・RCへの記入	株式会社形態が圧倒的多数を占める理由について、答えることができる。	【予習】今回の内容について『講義レジュメ』で確認する。 【復習】『重点課題』を用い、今回の学習内容に該当する質問に回答する。	90 90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
6週 /	・前回のおさらい ・さまざまな企業基準に基づく企業分類を知る	・講義 ・RCへの記入	大企業と中小企業、中堅企業、ベンチャー企業(ビジネス)の概念を説明できる。	【予習】今回の内容について『講義レジュメ』で確認する。 【復習】『重点課題』を用い、今回の学習内容に該当する質問に回答する。	90 90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
7週 /	・前回のおさらい ・産業、企業に関する経済学の初歩、競争の態様を学ぶ	・講義 ・RCへの記入	スケールメリット、価格競争、非価格競争の概念について、説明できる。	【予習】今回の内容について『講義レジュメ』で確認する。 【復習】『重点課題』を用い、今回の学習内容に該当する質問に回答する。	90 90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
8週 /	・前回のおさらい ・企業成長の主要な道筋(内発的成長、統合)について学ぶ	・講義 ・RCへの記入	内部留保とは何か、合併と買収の違いについて、明らかにできる。	【予習】今回の内容について『講義レジュメ』で確認する。 【復習】『重点課題』を用い、今回の学習内容に該当する質問に回答する。	90 90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力

回数	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	・前回のおさらい ・日本の経営システム1:現実の株式会社の姿を知る	・講義 ・RCへの記入	日本の株式会社の特徴、その理由について列挙することができる。	【予習】今回の内容について『講義レジュメ』で確認する。 【復習】『重点課題』を用い、今回の学習内容に該当する質問に回答する。	90 90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
10週 /	・前回のおさらい ・日本の経営システム2:経営スタイル、労使関係、について学ぶ	・講義 ・RCへの記入	日本的な経営スタイル、労働環境(労使関係)について説明することができる。	【予習】今回の内容について『講義レジュメ』で確認する。 【復習】『重点課題』を用い、今回の学習内容に該当する質問に回答する。	90 90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
11週 /	・前回のおさらい ・日本の経営システム3:企業間関係、企業成長に対する影響、について学ぶ	・講義 ・RCへの記入	日本における企業間関係を具体的に列挙することができる。	【予習】今回の内容について『講義レジュメ』で確認する。 【復習】『重点課題』を用い、今回の学習内容に該当する質問に回答する。	90 90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
12週 /	・前回のおさらい ・企業成長と経営者機能(管理者機能と企業者機能)との関係について学ぶ	・講義 ・RCへの記入	ペンローズの「企業家機能」「管理者機能」の違いを説明できる。	【予習】今回の内容について『講義レジュメ』で確認する。 【復習】『重点課題』を用い、今回の学習内容に該当する質問に回答する。	90 90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
13週 /	・前回のおさらい ・新しい企業像を探る(企業は誰のものか、企業統治のあり方)	・講義 ・RCへの記入	「株主支配」「経営者支配」の違いを説明できる。	【予習】今回の内容について『講義レジュメ』で確認する。 【復習】『重点課題』を用い、今回の学習内容に該当する質問に回答する。	90 90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
14週 /	・前回のおさらい ・新しい企業像を探る(企業の社会的責任、貢献の5つのレベル)	・講義 ・RCへの記入	企業の社会的責任や貢献に関する5つのレベルを理解している。	【予習】今回の内容について『講義レジュメ』で確認する。 【復習】『重点課題』を用い、今回の学習内容に該当する質問に回答する。	90 90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
15週 /	『重点課題』を利用した全体のおさらい	・質疑応答 ・RCへの記入	講義内容全体のストーリーを示すことができる。	【予習】『重点課題』に対応した全回答についての疑問点を整理する。 【復習】『重点課題』の内容、回答を利用して、疑問点を解消する。	240	主体性 働きかけ力 実行力 計画力

能力名: ①主体性 ②働きかけ力 ③実行力 ④課題発見力 ⑤計画力 ⑥創造力 ⑦発信力 ⑧傾聴力
⑨柔軟性 ⑩情況把握力 ⑪規律性 ⑫ストレスコントロール力